

# 風水害対応計画（簡易版 BCP）

作成日： 年 月 日

更新日： 年 月 日

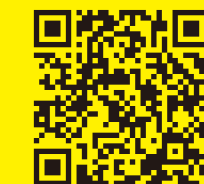
（会社、お店、事業所の名前）

ここまで（Q xx）のかたちであなたの事業所の風水害への対応について考えてきました。  
このページを使って1枚にまとめて事業所内に掲示しましょう。表が不足する場合は、別表を作り横に貼りましょう。

<b>災害</b>	<b>想定被害</b>	<b>直前にやること</b>	<b>情報収集</b>																																																																																		
<p>この場所でおきる風水害の想定</p> <p><b>荒川氾濫</b></p> <p>水深 <input type="text"/> m <small>（Q5 から転記）</small></p> <p><b>中川氾濫</b></p> <p>水深 <input type="text"/> m <small>（Q5 から転記）</small></p> <p><b>江戸川氾濫</b></p> <p>水深 <input type="text"/> m <small>（Q5 から転記）</small></p> <p><b>大雨が降り続いた場合</b></p> <p>水深 <input type="text"/> m <small>（Q6 から転記）</small></p>	<p>この建物に浸水する <small>（Q7 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr> <th>建物</th> <th>ここから浸水</th> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <p>建物に浸水したらこれが水没する <small>（Q8 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr> <th>建物</th> <th>中で水没するモノ</th> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table> <p>ここに水が入ると危険！ <small>（Q9 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>水没する車両 <small>（Q10 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>これが浮き上がって流出する！ <small>（Q11 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>強風で破損・飛散するモノ <small>（Q12 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>従業員が危険にさらされるケース <small>（Q13 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>	建物	ここから浸水							建物	中で水没するモノ																						<p>建物の浸水対策 <small>（Q14 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>建物内で水没するものの対策 <small>（Q15 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>危険な場所の浸水対策 <small>（Q16 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>水没する車両の移動場所 <small>（Q17 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>流出対策 <small>（Q18 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>強風対策 <small>（Q19 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table> <p>従業員の危険回避策 <small>（Q20 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td> </td></tr> </table>																						<p>地域の災害情報の収集 <small>（Q21 から転記）</small></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>情報源</th> <th>アクセス方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>避難</b></p> <p>会社・事業所が危険な時に避難する場所 <small>（Q22・23 から転記）</small></p> <table border="1"> <tr> <th>緊急避難建物</th> <th> </th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>緊急避難建物に行けない時に逃げ込む場所</td> <td> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><b>被災したら</b></p> <p>重要顧客・重要協力会社の連絡先 <small>（Q24 から転記）</small></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>重要顧客・協力会社</th> <th>電話番号・メール等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>検査・修理の依頼先 <small>（Q25 から転記）</small></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>設備</th> <th>依頼先・電話番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	情報源	アクセス方法							緊急避難建物				緊急避難建物に行けない時に逃げ込む場所		重要顧客・協力会社	電話番号・メール等							設備	依頼先・電話番号						
建物	ここから浸水																																																																																				
建物	中で水没するモノ																																																																																				
情報源	アクセス方法																																																																																				
緊急避難建物																																																																																					
緊急避難建物に行けない時に逃げ込む場所																																																																																					
重要顧客・協力会社	電話番号・メール等																																																																																				
設備	依頼先・電話番号																																																																																				
<p style="background-color: #e91e63; color: white; text-align: center; padding: 5px;"><b>平時の備え</b></p> <p>土のうの必要総数 <input type="text"/> 個 <small>（Q26 から転記）</small></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">事業所に留まるための備蓄品 <small>（Q27 から転記）</small></th> </tr> <tr> <th>備蓄品</th> <th>数量</th> <th>備蓄品</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">非常時持出し品リスト <small>（Q28 から転記）</small></th> </tr> <tr> <th> </th> <th> </th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">災害教育・訓練 <small>（Q29 から転記）</small></th> </tr> <tr> <th>内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	事業所に留まるための備蓄品 <small>（Q27 から転記）</small>				備蓄品	数量	備蓄品	数量																	非常時持出し品リスト <small>（Q28 から転記）</small>												災害教育・訓練 <small>（Q29 から転記）</small>		内容	実施日																																													
事業所に留まるための備蓄品 <small>（Q27 から転記）</small>																																																																																					
備蓄品	数量	備蓄品	数量																																																																																		
非常時持出し品リスト <small>（Q28 から転記）</small>																																																																																					
災害教育・訓練 <small>（Q29 から転記）</small>																																																																																					
内容	実施日																																																																																				

## Step Up!

もう少し深掘りしたい場合は、中小企業庁の「事業継続力強化計画」の策定に取り組ましましょう。対象を地震や新型ウィルスまで広げて、事前対策と初動対応を深めることができます。認定制度であり、認定を受けられると対策実施に対する税制優遇などのメリットがあります。



### 中小企業庁【事業継続力強化計画】

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/keizokuryoku.htm>

さらに本格的な BCP の策定に取り組むには、中小企業庁が公開している「中小企業 BCP 策定運用指針」を参考にしましょう。BCP の様式集（ひな形）も掲載されています。



### 中小企業庁【中小企業 BCP 策定運用指針】

<https://www.chusho.meti.go.jp/bcp/>

### 小さな会社・事業者のための葛飾区風水害BCPワークブック （東京都 地域持続化支援事業）

- ◎発行日：2022年1月
- ◎発行：東京商工会議所 葛飾支部 <https://www.tokyo-cci.or.jp/katsushika/>  
〒125-0062 葛飾区青戸7-2-1 テクノプラザかつしか（3階）
- ◎協力：東京都葛飾区

小さな会社・事業者のための



葛飾区

# 風水害BCP ワークブック

備えて安心!



突然やってくる その日のために

# はじめに

この冊子は、葛飾区の小さな会社・事業者が風水害対策として、簡易な BCP（事業継続計画）を作成するための取り組みをワークブック形式で作成していくものです。

地球温暖化・気候変動の影響で、過去に例がないような極端な気象現象が増加しています。そのため日本列島では、毎年のように大型台風や線状降水帯などによる大規模気象災害が発生しています。

私たちが事業を行っている葛飾区は、区の半分近くがゼロメートル地帯となっていて、特に水害には弱い地域とされています。これまで国や自治体から、住民としての災害への心構えはたくさん伝えられてきましたが、私たち事業者はどういう備えと行動をとればよいのか、このワークブックで考えていきましょう。説明を読んだら右ページの（Q xx）であなたの会社（またはお店・事業所、以下まとめて「事業所」とします）にあてはめて考えてみてください。最後まで書き進めていくとあなたの事業所の風水害対応計画（簡易版 BCP）ができあがります。

## 風水害用 BCP 完成までのロードマップ



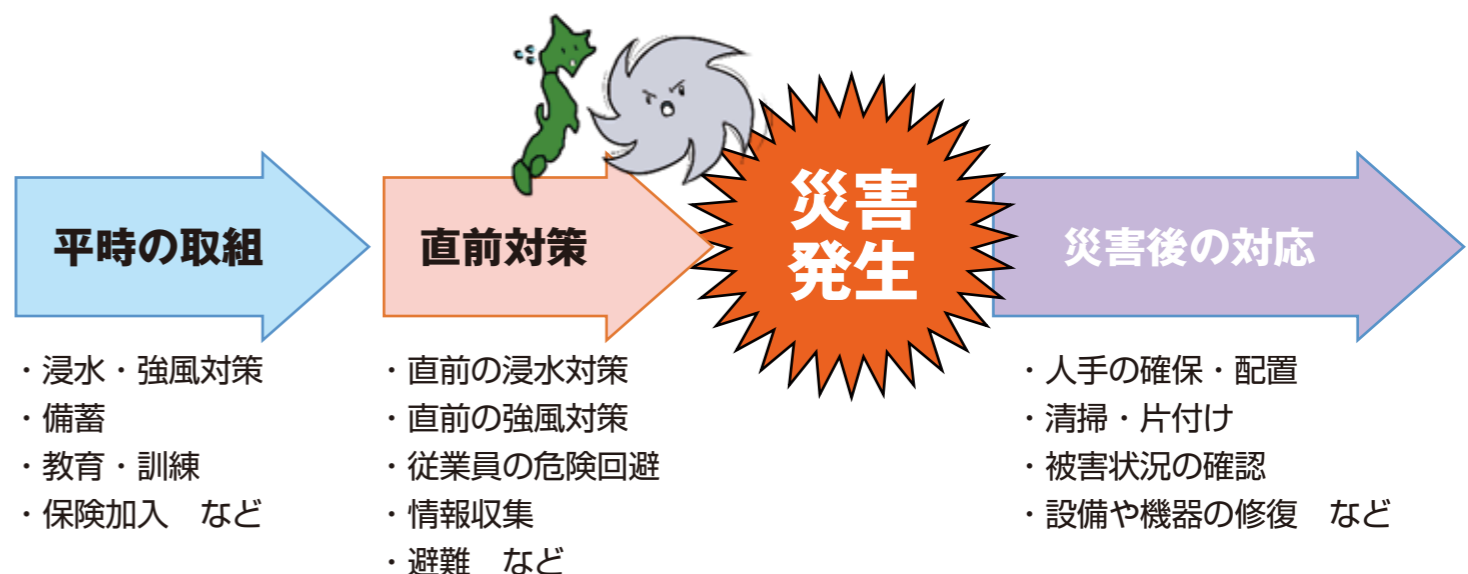
**風水害対応計画（風水害に特化した簡易版 BCP）の完成**

# 1, BCP とは何？

最近 BCP（Business continuity planning：事業継続計画）という言葉を目にする人が増えてきたと思います。BCP とは災害などの緊急事態に対応するための計画なのですが、まず企業が災害に対応するフェーズを考えてみましょう。

## 【1】 気象災害対応の 3 フェーズ

災害対応はそのフェーズ（段階）ごとに考える必要があります。特に台風などの気象災害は災害の発生がある程度予測できますので、その前段階の直前対策がとても重要になります。



## 【2】 BCP で自社の災害対応を見える化

何の準備もないまま実際に被災してしまった場合、途方に暮れてしまって最適な対応をとることは難しいものです。

しかし自社の災害対応とそれに必要な情報をある程度見える化しておけば、いざという時の対応がだいぶ進めやすくなります。会社の災害対応を想定して見える化するもの、それが BCP です。

あなたの会社、事業所のことについて考えてみてください。

Q1 あなたの会社は創業何年ですか？

 年

Q2 あなたの事業所では何人の従業員が働いていますか？

 人

Q3 あなたの事業所の事業が停止すると困る人・企業は誰ですか？

## 2, 葛飾区の災害

葛飾区は利根川と荒川の堆積作用で作られた荒川低地の一部です。さらに、高度経済成長期の大量の地下水汲み上げで地盤沈下が進み、区の半分近くがゼロメートル地帯となっています。つまり私たちの多くは川の水面や東京湾の海面より低い場所で事業をおこなっているのです。

災害対策の第一歩は敵（＝葛飾区で起こりうる災害）を知ることです。ここでは葛飾区で起こりうる風水害について考えましょう。

### 【1】荒川・中川・江戸川の洪水

葛飾区は荒川と中川と江戸川を境界として、東部・西部・南部の3つの地域に分けることができます。

葛飾区内で破堤（堤防が決壊すること）による洪水が発生した場合には、中川によって他地域への浸水をおそれるようになっていますが、区外上流部で破堤した場合は、複数の地域が浸水するおそれもあります。



### 【2】日常的に起こりうる内水氾濫

東京23区のような都市部においては、地表のほとんどは舗装で覆われていて雨水を直接吸収できず、下水道や排水路に流れていきます。この排水能力を上回る降雨量(目安は1時間に50mm以上の降雨)があったとき、地表が冠水します。これを「内水氾濫」と言います。

都市で起こりやすいため「都市型水害」とも呼ばれています。

水害というと大河川の氾濫をイメージしがちですが、発生する確率は内水氾濫の方がはるかに高いのです。地球温暖化・気候変動時代に入っているいま、都市部では内水氾濫は日常的に起こりうる災害と考えるべきです。葛飾区内ではほとんどの地域で0.5m以上1.0m未満、あるいは0.5m未満の内水氾濫が発生する可能性があります。



200年に1度の大雨で荒川下流域で堤防が決壊した場合の浸水想定地域

100年に1度の大雨で中川流域で堤防が決壊した場合の浸水想定地域

200年に1度の大雨で江戸川流域で堤防が決壊した場合の浸水想定地域



平成12年9月の東海豪雨と同様の大雨を想定した場合の浸水想定地域



### 【3】 東京湾の高潮

大型台風などの強い低気圧が来襲すると海面が引き上げられます。また東京湾では台風が湾の西側（神奈川県側）を通過する際、湾の奥に向けて強風が吹き続け、海水が陸に吹き寄せられます。これが高潮です。海水のボリュームが桁違いに大きいため、いったん陸地に浸水が始まると葛飾区のような低地では被害が一気に広がります。

一般に中心気圧930hPa以下の猛烈な台風が接近した場合に高潮が発生するおそれがあります。葛飾区で高潮浸水が発生すると、西部地域・南部地域のほとんどは3.0m～5.0m、東部地域でも0.5m～3.0m浸水する可能性があります。



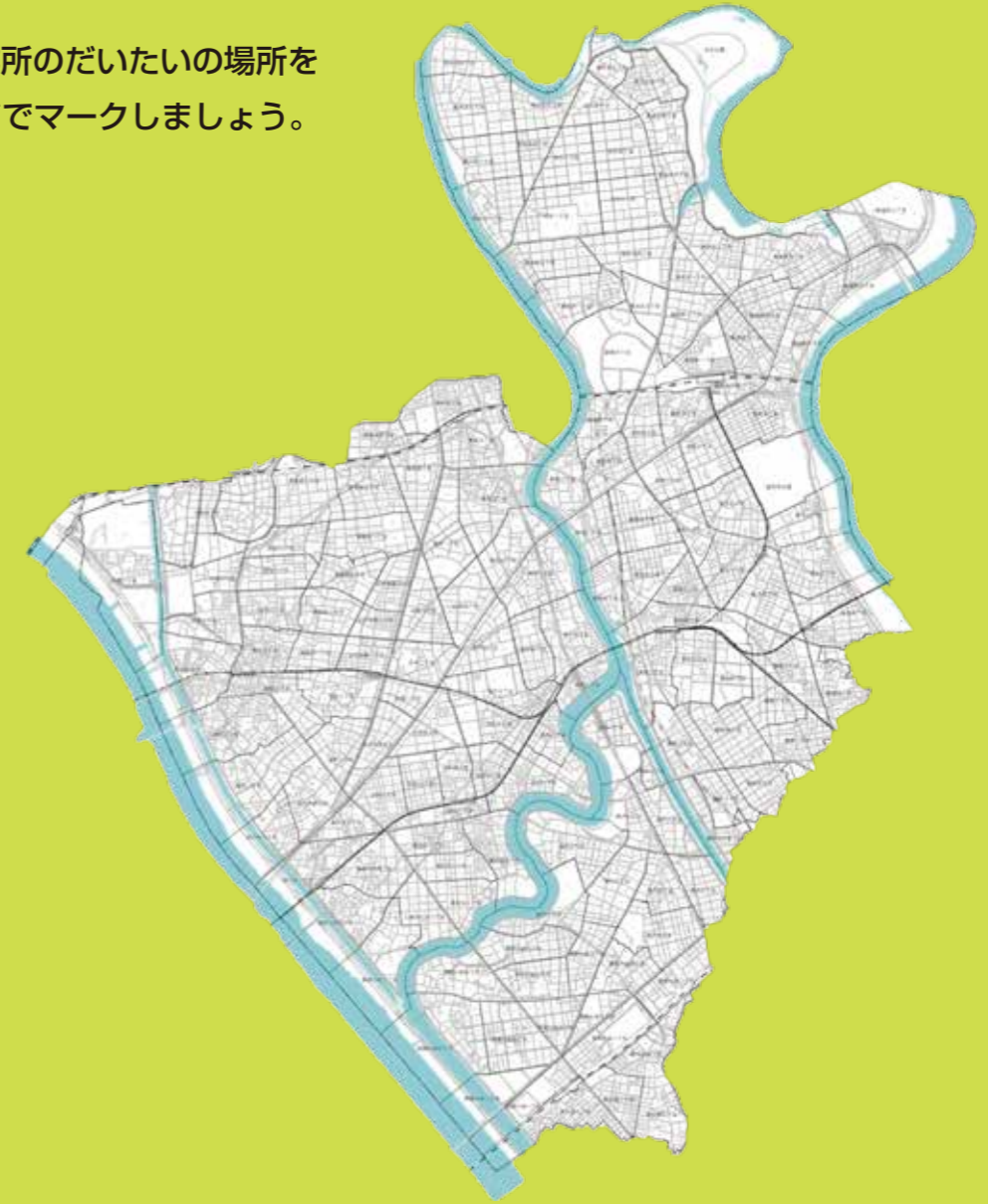
### 【4】 強風

2019年の台風15号では、伊豆諸島や関東地方南部で猛烈な風を観測し、多くの地点で観測史上1位の風速を更新する記録的な暴風となりました。葛飾区から約30Km離れた千葉市の最大瞬間風速は57.5mでした。風速17.2mを超えると立っているのが困難になると言われますが、これを遥かに超えるものでした。地球温暖化により海面水温が高まり、今後はこのような「猛烈に強い」台風が増えると考えられています。



ハザードマップで調べると、場所によっては洪水や高潮で3.0m～5.0mあるいはそれ以上の浸水が予想されている地域もあります。たとえ事業所がそこにある場合も、「うちはどうしようもない」と災害対策をあきらめないでください。例えば葛飾区の荒川洪水ハザードマップは200年に一度の規模の大雨を前提としています。200年に一度のためにあきらめるのではなく、5年10年に一度の大雨に対して備えをしましょう。

Q4 まず事業所のだいたいの場所を  
●印などでマークしましょう。



Q5 インターネットで「葛飾区水害ハザードマップ」を検索し、「葛飾区水害ハザードマップ」のページの下部の「荒川・中川・江戸川洪水ハザードマップ」のリンクを開いて、洪水が発生した時の事業所の浸水深を調べましょう。

荒川が氾濫した場合 水深 m

中川が氾濫した場合 水深 m

江戸川が氾濫した場合 水深 m

Q6 インターネットで「葛飾区水害ハザードマップ」を検索し、「葛飾区水害ハザードマップ」のページの下部の「水害ハザードマップ【解説編】」のリンクを開いて、リンク先の21頁で内水氾濫が発生した場合の事業所の浸水深を調べましょう。

大雨が続き内水氾濫が発生した場合 水深 m

### 3, 被害を想定する

葛飾区で実際に風水害が発生した場合に、あなたの事業所における具体的な被害を想定することが災害対策の第2歩です。被害は経営資源の構成要素である、ヒト・モノ・カネ・情報の観点から考えると良いのですが、風水害の場合は、浸水・強風によるモノの被害に絞って考えても良いでしょう。

#### 【1】 建物内の浸水

あなたの事業所で建物内への浸水が予想される経路を確認しましょう。例えば次のような場所です。

- 建物の正面入口
- 建物の通用口・裏口
- 倉庫・工場等の搬入口
- 低い位置にあるガラス窓（水圧で破損の可能性）
- 地下駐車場出入口 など



#### 【2】 モノが水没

建物内に浸水すると水没して故障などの被害を受けるモノを確認しましょう。

- 機器類
- 商品
- 原材料
- 用具類
- 地下にあるビル電気設備、エレベーター動力設備など



#### 【3】 浸水による漏洩・爆発等

水が侵入すると危険な設備を確認しましょう。

- 浸水して漏洩すると危険な設備  
(例：めっき槽、地下排水ピット)
- 水が混入すると爆発・発火の可能性のある設備  
(例：アルミ等熔融高熱物、マグネシウム) など



Q7 事業所の建物への浸水経路で該当するところにチェックマークを入れましょう。

建物名	正面入口	通用口・裏口	その他
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ( )
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ( )
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ( )
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ( )
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> ( )

Q8 建物内に浸水すると水没して故障などの被害を受けるモノを書き出しましょう。

建物名	機器類・商品・原材料など
(例) 倉庫	床置きのパレット上の商品

Q9 水が侵入すると危険な設備と起きうることを書き出しましょう。

建物名	設備名	浸水すると起きうること
(例) 工場棟	めっき槽	めっき液が漏洩する

## 【4】 車両が水没

水位が上がると水没して故障する可能性のある社有車等を確認しましょう。

- 営業用乗用車
- 配送用トラック、ワゴン車
- フォークリフト など



## 【5】 水位上昇による流出

水位が上がると浮き上がり流れ出してしまう可能性のあるモノを確認しましょう。

- 屋外、倉庫内のパレット類
- 水に浮く商品
- 水に浮く原材料 など



## 【6】 強風による屋外設備等の破損、飛散

強風により破損したり飛散する可能性のある屋外設備や用具を確認しましょう。

- 店頭のデジタルサイネージ
- 建物への固定が甘い看板
- 建物への固定が甘い配管、ホース
- 転倒する可能性のある屋外タンク
- 飛散する可能性があるトタン屋根、テント屋根
- 飛散する可能性がある屋外の用具類
- 足場 など



## 【7】 従業員の危険

外出中の従業員が危険な目にあったり、災害対応中に怪我をするなどのリスクを確認しましょう。

- 外出中の従業員が落下物・飛散物で怪我をする
- 運転中に車両がアンダーパス等で浸水し立ち往生する
- 屋外で対策中に落下物・飛散物で怪我をする
- 窓ガラスが強風や飛散物で割れて室内にいた従業員が怪我をする
- 帰宅時間、出勤時間が風雨のピークと重なる など

Q10 水没する可能性のある車両とその駐車場所を書き出しましょう。

車両の種類	保有台数	駐車場所
(例) トラック	2	事業所敷地に隣接する月極駐車場

Q11 水位が上がると浮き上がり流れ出してしまう可能性のあるモノと置かれている場所を書き出しましょう。

流出可能性のあるモノ	置かれている場所
(例) 木製パレット	倉庫内、屋外

Q12 強風により破損・飛散の可能性のある屋外設備や用具類を書き出しましょう。

設備・用具類	破損・飛散しやすい理由
(例) 店舗正面の袖看板	固定部分が腐食している

Q13 風水害において当社従業員が危険にさらされるケースを書き出しましょう。

設備・用具類
(例) 営業員が外出中に強風による落下物・飛散物で怪我をする

## 4, 直前に対策する

風水害は地震などと違って、ある程度災害の進行が予想できます。雨風がピークになる前に浸水対策と強風対策を行うことで減災効果が期待できます。

### 【1】 浸水対策

#### ① 建物浸水防止

事業所建物内への浸水を防止しましょう。8 頁の Q7 をもとにして、建物内への浸水が予想される場所に対策を行います。

- ドア、シャッターを占める
- 土のうを積む ※
- 止水版を設置する（初期工事が必要）など  
※ まずブルーシートを敷き、その上に土のうを重ねて最後にブルーシートで覆うことで、土のうの隙間からの浸水を防ぐことができます。

#### ② モノを高所に移動

浸水すると故障の原因になったり、価値が低下するモノはできる限り高い所に移動させましょう。

- 床置きを機器を卓上にあげる
- 商品や部品を棚や上の階に移動させる
- 倉庫内の荷物はパレットを重ねるなどで高さをかせぐ など

#### ③ 水が侵入すると危険な設備の対策

水が入らないため、または水が入っても最悪の結果にならないための対策を行きましょう。

- 液体を移動させる
- アルミなどの溶融高熱物の加熱を停止して温度を下げる
- 液体槽をブルーシートで覆う
- オイルフェンスを設置する など

#### ④ 車両の移動

浸水可能性のある車両はあらかじめ移動させましょう。

- 周囲が浸水する前に車両を移動させる。（あらかじめ移動先を決めておく）
- フォークリフトのように公道を走れない車両は倉庫内に入れるなど

Q14 Q7 で想定した建物浸水の防止のために直前に行うべき対策を書き出しましょう。

建物名	浸水経路	対策
(例) 倉庫	搬入口	シャッターを閉める、土のうを積む

Q15 Q8 で想定した浸水対策すべきモノとその対策を書き出しましょう。

モノ	浸水対策
(例) 床置きのパソコン本体	事務机上にあげる

Q16 Q9 で想定した浸水すると危険な設備について、水を入れないため、または水が入っても最悪の結果にならないための対策を行きましょう。

対策が必要な設備	対策
(例) めっき廃液槽	廃液を電動ポンプで移動させる

Q17 Q10 で想定した浸水が予想される場所にある車両を移動させる先を決めておきましょう。

対策が必要な設備	台数	移動先
(例) 4トントラック	2台	同業 A 社（松戸市）の敷地内

⑤水位上昇による流出 水位が上がると浮き上がり流れ出してしまう可能性のあるモノの対策をしましょう。

- 屋外の対象物を屋内に移動
- 倉庫・工場等の搬入口の閉鎖 など

## 【2】 強風対策

強風により破損したり転倒、飛散する可能性のある屋外設備や用具の対策をしましょう。

- 店頭設置物の回収
  - 屋外用具を屋内に移動
  - 固定が甘い箇所の緊急補強（縛りつけるなど）
- ※ 高い位置にある袖看板などは直前の対策は困難です。平時に対策しておきましょう。

## 【3】 従業員の危険回避

外出中の従業員が危険な目にあったり、災害対応中に怪我をするなどのリスクに対する対策を行いましょう。

- 外出中の従業員に直帰指示を出す
- アンダーパス箇所を回避するよう運転手に指示する
- 屋外の直前対策を風雨ピークとなる前に行う
- ガラス窓に飛散防止フィルムを貼る
- 当日の終業時刻を早める、翌日の始業時刻を遅らせる、営業時間の短縮 など

# 5, 情報収集

NHK や民放放送（県域放送といいます）では得られない、地域（葛飾区内）の災害情報を入手しましょう。

- コミュニティラジオ放送
- 自治体災害 SNS、自治体ホームページ、防災行政無線など
- 加入している地域の協同組合などからの情報収集



これらの直前の屋外での対策は、警戒レベル2もしくは3の段階までに行います。避難情報として自主避難や高齢者等避難が呼びかけられる段階です。これを過ぎ警戒レベル4になると、地域全員に避難指示が出る段階になり、屋外での対策は危険が伴います。

警戒レベル	1	2	3	4	5
避難情報	早期注意情報	自主避難 など注意の呼びかけ	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保

Q18 Q11 で想定した、水位が上がると浮き上がり流れ出してしまう可能性のあるモノの対策を行いましょう。

流出可能性のあるモノ	流出防止対策
(例) 木製パレット	屋外のを倉庫内に入れる 倉庫の搬入口を閉鎖する

Q19 Q12 で想定した、強風により破損したり転倒、飛散する可能性のある屋外設備や用具の対策をしましょう。

設備・用具類	対策
(例) 店頭のデジタルサイネージ	店内に収納する

Q20 Q13 で想定したケースに関して、屋外が危険になる前に経営者が意思決定すべき事項、従業員に指示すべき事項を決めておきましょう。

従業員の危険 (Q13)	対策
(例) 帰宅時間、出勤時間が風雨のピークと重なる	当日終業時間を正午までに決定する 翌日始業時間を当日終業時までに決定する

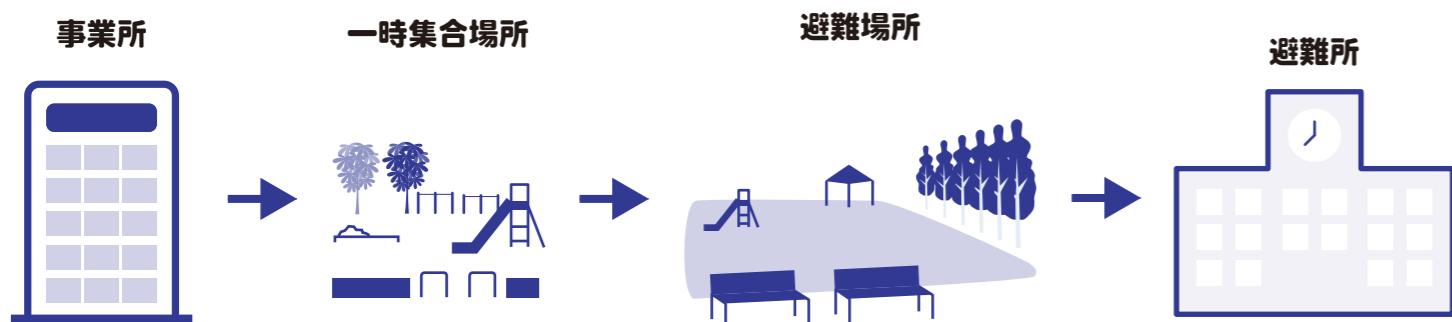
Q21 葛飾区内など、地域の災害情報を入手するための情報源（ソース）を書き出しましょう。

情報源	アクセス方法
コミュニティ放送 かつしか FM	FM ラジオ 78.9MHz インターネットラジオアプリ Radimo 
葛飾区災害 Twitter	葛飾区 @katsushika_city をフォロー
葛飾区 facebook ページ	葛飾区 @katsushika.city を「いいね」
葛飾区ホームページ	https://www.city.katsushika.lg.jp
防災行政無線	区内 131 箇所（※）に設置されている屋外スピーカー



# 6, 避難

まず大地震の場合の避難行動は、建物倒壊や火災の危険等で事業所に留まれない場合に、一時（いつか）集合場所や避難場所へ移動し、その後も事業所に戻れない場合には、避難所へ移動し当面の生活拠点とすることとなります。



しかし、水害の場合には周囲が急激に浸水する可能性があるため、むやみやたらな移動はかえって危険な場合があります。現在の浸水状況、今後の河川の氾濫の可能性等を勘案して、事業所に留まるかあるいは移動するかを判断する必要があります。そのためには、避難先の候補をあらかじめあげておくことが、いざという時の迅速な行動につながります。

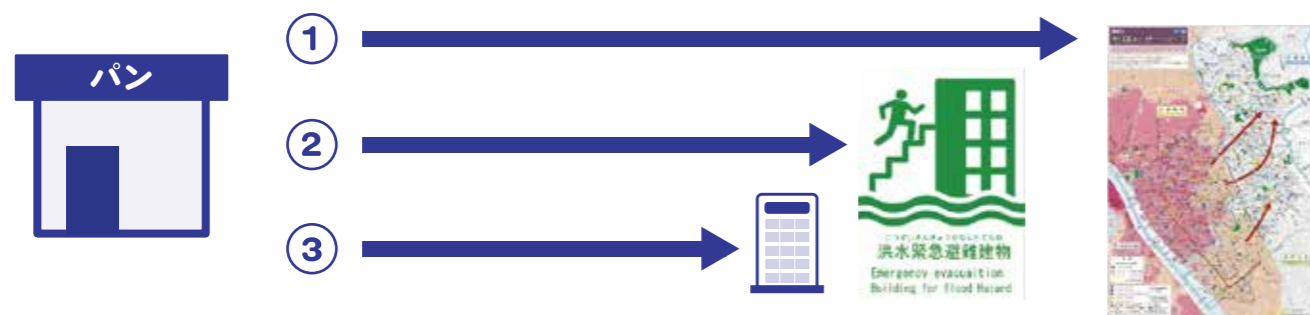
## 【1】内水氾濫の場合

事業所建物の上の階か、至近距離の建物の上の階に避難しましょう。



## 【2】河川が氾濫するおそれがある場合

- ①まだ安全に移動できそうなら浸水しない地域（の避難所）に移動しましょう。
- ②既にそこまでの移動が危険な場合は近くの洪水緊急避難建物に避難しましょう。
- ③それも難しい場合は至近距離の高い建物に避難します。



### 洪水緊急避難建物

ハザードマップの浸水深に基づき葛飾区が指定した、浸水をしないフロアがある 209 箇所<sup>(※)</sup>の区有施設。入口等にピクトグラムプレート（絵文字看板）が設置されています。

※2021年12月現在



### 水害における避難所の考え方

葛飾区の場合、大規模な水害が発生すると避難所は開設されない（できない）か、それ以前にいったん開設されていても閉鎖されることがあります。**水害時の避難所は地震の場合の避難場所と同じ**位置づけの、一時の安全を守る場所と考えるべきです。

### Q22

インターネットで「葛飾区洪水緊急避難建物」で検索し、「洪水緊急避難建物を指定しました」のページの下部の「洪水緊急避難建物一覧」のリンクを開いて、事業所から近い洪水緊急避難建物を2つ見つけましょう。

洪水緊急避難建物 名称	住所

### Q23

事業所から至近距離にある、Q5で調べた予想浸水深以上の高さの建物を複数書き出しましょう。

建物名	住所

## 7, 被災後の対応

十分な対策を講じたとしても、被害は発生する可能性があります。ここでは、実際に被災してしまったら何をするようになるのか考えていきましょう。



水害の場合、既に台風が過ぎ去って青空が広がっているとしても、地上では浸水状態が継続している場合があります。特にゼロメートル地帯が多い葛飾区では、最悪の場合には2週間以上水が引かない地域もあります。浸水後の対応は、基本的には水がひいてから始めることになります。

### 【1】 参集

災害が発生すると従業員も被災していたり、直後は公共交通機関が止まっていたり、経営者・店主としては、何となく出社させることをためらうかもしれません。しかし、人がいなければ復旧は始まりません。普段の仕事ではなく、会社やお店を復旧して事業を再開させるために、できる限り出社してほしいことを、平時から従業員に伝えておきましょう。

### 【2】 浸水後の清掃

ある程度水位が下がってきたら、まず事務所や店舗の排水・清掃を行います。特に河川の洪水がおきた場合は泥水が流れてきますので、水が引いた後建物内や敷地内が泥だらけになっています。乾き切ってしまう前に泥の除去が必要です。これは力仕事になるため、ボランティアの支援を受けたり、近所で助け合って行いましょう。

### 【3】 散逸したモノの回収・片付け

事務所や店舗の水位が上がると様々な物が浮かび上がり、倒れたり、もとあった場所から移動しています。このように散逸したものの回収・片付けを行います。

### 【4】 機器や車両の検査・修理依頼

浸水した機器や車両は、日が経って乾いたように見えても、内部に水が残っていたり泥が付着している可能性があります。むやみに電源を入れたりエンジンをかけたりせず、まずは機械の保守会社や自動車修理工場に検査を依頼しましょう。ただし災害後はこのような検査・修理依頼が殺到しますので、あらかじめ保守会社や自動車整備業の連絡先をリストアップしておき、迅速に連絡して早く対応してもらいましょう。修理不可能な場合は再調達となります。

### 【5】 ライフラインの確保

事業には電気、ガス（火力）、水などのライフラインが不可欠ですが、災害時には供給が停止する可能性があります。災害時でも最低限のライフラインを確保する方法を検討しておきましょう。

- 小型発電機、蓄電器で小電力を確保する
- 電気自動車から電力を得る
- カセットコンロとボンベで火力を確保する
- 断水になる前に水槽、風呂場などに水を溜める

### 【6】 取引先の情報収集

たとえ自社の被害が軽微であったとしても、顧客や協力会社が被災すると自社の事業に大きな影響が生じます。重要顧客・重要協力会社の連絡先情報をリストアップしておきましょう。

Q24 重要顧客・重要協力会社の連絡先情報を書き出しておきましょう。

重要顧客・協力会社	電話番号	メールアドレス等

Q25 重要機器や車両が浸水した時の検査・修理の依頼先を書き出しておきましょう。

重要機器・車両	保守・修理依頼先	電話番号

## 8, 平時の取り組み

風雨がピークになる直前の対策、避難、被災後の対応と考えてくると、災害が発生していない平時の取り組みの重要性に気付かれると思います。最後に平時に何に取り組んでおけば良いのか考えましょう。

### 【1】防災用品（土のう）の備蓄

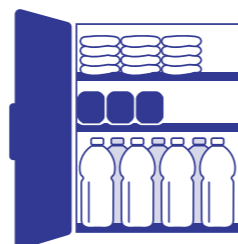
少しでも浸水を防ぐためには、建物への浸水経路に土のうを積むことが有効ですが、そのためには土のうの備蓄をするか、災害発生前に調達する必要があります。最近では吸水性土のうのような保管にかさばらないタイプもでていきますので、タイプから必要個数を計算して備蓄しましょう。また葛飾区では誰でも自由に土のうを取り出せる「土のうステーション」を区内 25 箇所<sup>(※)</sup>に設置していますので、不足の場合活用しましょう。

※2021年12月現在

### 【2】社内避難のための備蓄

事業所建物の上の階に避難する場合、水が引くまでの間は移動が難しくなりますので、必要人数分の備蓄をしましょう。気象災害だけでなく大地震の時にも有効です。消費期限があるものは定期的に入れ替えましょう。

- 非常食、飲料水
- 災害用トイレ
- 衛生用品



### 【3】非常時持ち出し品を決める

事業所内に留まることができない場合は、洪水緊急避難建物や至近距離の高い建物に避難しますが、その際の非常時持ち出し品をあらかじめ決めておき、災害が近付いたら準備しましょう。

- 預金通帳、社印
- キャッシュカード、クレジットカード
- 特に重要な鍵



### 【4】教育・訓練

災害時に計画した行動が実際にとれるようにするためには、平時の教育・訓練が重要です。難しく考えずにできる範囲で取り組みましょう。

- YouTube 上の行政の災害動画を全員で視聴する
- 洪水緊急建物や至近距離の高い建物に移動してみる
- 土のうを積む練習をする
- 非常食備蓄品の試食会（期限前の入れ替えを兼ねる）

Q26 Q14 で想定した土のう対策が必要な建物について、必要個数を書き出しましょう。土のうの種類にもよりますが、一段の高さは 10-15cm、幅は 20cm を目安にします。

建物名	浸水経路（積む場所）	必要数量
(例) 倉庫	搬入口	横 15 個 × 3 段 = 45 個
		(合計)

Q27 事業所内にとどまるための備蓄品を書き出して調達しましょう。

備蓄品	備蓄数量	賞味期限	内訳
(例) 非常食	180 食	2027/3	20 人 × 3 食 / 日 × 3 日

Q28 非常時に持ち出すもののリストを書き出しましょう。

持ち出し品	備考（数量等）

Q29 平時に行なう教育・訓練とその実施日を決めましょう。

内容	備考	実施日
(例) 土のうを積む練習	本社玄関前に積む練習をする	毎年 9 月 1 日

# MEMO

Dotted lines for writing on page 21.